

## 大学院国際文化研究科修士・早川貞幸さんが研究成果を学会誌に発表

本学大学院・国際文化研究科修士で、現在大学院研究生の早川貞幸さんが、大学院修士論文の一部を日本包装学会誌に投稿し、2月号に発表されることになりました。早川貞幸さんは、川上紳一教授の指導のもとで、生ごみの堆肥化に最適な段ボール箱の仕様・構成を明らかにし、生ごみのコンポスト化に最適な K280 複両面段ボールを用いて段ボールコンポストを試作しました。これを用いて、本学附属小学校や公開講座で環境教育を実践しています。

早川貞幸さんは、長年勤めた段ボールメーカーであるダイナパック株式会社と連携し、さまざまな仕様・構成の段ボール箱を製作し、実際に家庭でできる生ごみを堆肥化する実験を行いました。生ごみの堆肥化には、生ごみに混ぜる基材の水分を適度に保持する必要がありますが、水分過多になると段ボール箱が壊れるといったトラブルがありました。適度な水分保持力と強度のある K280 複両面の段ボール箱で段ボールコンポストを作ることで、だれでも簡単に生ごみが堆肥化できることから、段ボールコンポストの普及活動を行っています。

発表論文：

「生ごみのコンポスト化に適した段ボール箱資材の評価」

早川貞幸・石川一史・川上紳一

日本包装学会誌，第 29 巻，1 号（2020 年 2 月号）



図. K280 複両面段ボールで試作した段ボールコンポスト（左）と、段ボールコンポスト用いた実験の準備をする本学附属小学校の児童。